

# 2010 年度後期自治委員会総会決議

## 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会中央執行委員会

### 1. はじめに

現在、大阪府立大学に大学改革という大きな変化が訪れています。しかしその変化の中で、大学の重要な構成員である学生の意見は軽視される傾向にありました。学生自治会は学生の代表として、そのような状況を見過ごすわけにはいきません。大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会（以下、学生自治会）は、学生とともによりよい学生生活の実現を目的に活動を行い、大学改革に伴う大学の様々な変化に対して声を大にして学生の意見を発してきました。

この自治委員会総会を機に、今後の学生生活をよりよいものとしていくため、現在そしてこれからの自治会活動や大学について考えていきましょう。

### 2. 活動報告・活動方針

学生自治会は、2010年度前期自治委員会総会から現在まで“**これまでの活動**”で示す活動を行ってきました。また、2011年度前期自治委員会総会まで“**これからの活動**”で示す活動を行っていきます。

#### 【要望書交渉に関する活動】

##### ・ **これまでの活動**

学生が日頃から抱えている要望は、例え切実でも学生ひとりひとりが行動するだけでは、実現は難しいと考えられます。しかし、学生全員で要望することによってそのような切実な要望が実現しやすくなります。そのために、学生自治会は学生の要望をまとめ、学生の総意として大学と交渉し、問題解決や協力を要求する要望書交渉という活動を行っています。

今年は大学改革という大きな変化を目前に、大学の大学改革の進め方や大学の制度や環境に対する学生の関心が高まっていました。それを受けて学生自治会は、大学に対する不信や不満に起因する要望や大学の制度や環境に対する要望を学生が抱えていると考えました。そこで、学生の現状を調査・把握するために10月4日から11月30日にかけて要望アンケートを実施しました。今回実施したアンケートにはその質問項目の背景知識が必要なものが多かったため、資料を同時に配布しました。

アンケートでは学費・授業料減免制度や講義・履修制度、大学の情報公開などといった事柄を調査しました。そして中百舌鳥・りんくうの各キャンパスによって学生がおかれている状況が異なるため、中百舌鳥・りんくうの各キャンパスの学生を対象としたアンケートを作成し実施しました。また、学費・授業料減免制度や大学の情報公開などといった全学的な事柄については、羽曳野キャンパスの学生も含めた、この大学の全学生の要望として伝えることでより実現しやすくなるを考えました。そこで、羽曳野キャンパス学生自治会に協力を依頼し、羽曳野キャンパスでも要望アンケートを実施しました。

要望アンケートは、教員の協力を得て授業や研究室で配布を行い実施しました。また、アンケートを回収するまでに要望を書き切れなかったり、アンケートを提出した後に新たな要望を抱いたりすることも考えられます。そこで、いつでも回答できるようにアンケート用紙を付属させた回収箱を中百舌鳥キャンパス構内23カ所に設置しました。同時に、大学や学生自治会への意見を集めている意見箱もアンケートの回収箱として活用しました。さらに新しい試みとして、携帯電話やパソコンからでも回答できるよう、学生自治会のホームページでも同様のアンケートを実施しました。その結果、全体で1041通の回答がありました。

そして、学生自治会は要望アンケートの結果や、昨年12月はじめから今年11月末までの間に意見箱に投函された意見をまとめて要望書を作成しました。また、要望書を作成するにあたって、要望内容に具体性をもたせ、要望項目を裏付けるために、各項目における調査結果と、その要望項目の基になった学生の声を掲載した要望書資料を作成しました。

## ・これからの活動

学生自治会は、これから要望の実現を目指し、要望書と要望書資料を用いて大学と交渉を行います。交渉の場には寺迫正廣学生センター長をはじめ、大学の各部局の担当者に出席してもらえるように調整していきます。また、その要望書が確かにアンケートの結果や意見箱などに寄せられた学生の意見をまとめて作られていることを示し、大学に学生の実情を知ってもらい今後の大学運営の参考にしてもらうため、全ての寄せられた要望・意見も要望書資料（別冊）としてまとめ、要望書交渉で提出します。また、寄せられた要望・意見の中から、生活協同組合に関係ある内容については、生活協同組合に提出します。

また、2005年度要望書交渉から要望書に対する大学の回答は公開形式で行って来ました。これは、学生が大学の実情や見解を理解し、その場で質問や意見交換ができるもので、学生と大学の相互理解を築く上で大変有益なものであると学生自治会は考えます。そこで、今年度も要望書に対する大学の回答を公開形式で行えるよう、大学と調整します。

昨年度の公開回答は、一昨年度に比べ参加者が減少しています。これは事前の情報宣伝が不十分であったためだと学生自治会は考えており、今年度の公開回答では学生の関心を高められるような方法を検討していきます。

## 【大学改革に関する活動】

### ・これまでの活動

今回の大学改革について、大学はこれまで、学生や教職員に決定事項を押し付けるような形で推し進めてきました。そのような大学のやり方に対して、学生自治会はこれまで、抗議文やシンポジウムへの参加などを通じて、疑問や遺憾の意を表してきました。同時に、大学改革の進捗状況やその問題点を情報収集し、学生に対して発信してきました。

また大学は、大学改革の概略しか決まっていなかった昨年12月の説明会以降、学内全体に向けての大学改革に関する説明会や意見交換会を行っておらず、大学改革に関して昨年12月以降に新しく公開された情報も、ほとんど学生に伝わっていない現状でした。そのため学生自治会は今回の大学改革について、これまでの経緯と新しく公開された情報を掲載した冊子『改革の行方』を作成し7月に全学生に配布しました。この冊子には、現行の大学で行われている学問の維持、学生と教職員が一体となって勉学環境について話し合う「学生・教職員勉学環境改善委員会（仮）」の設置、そして教育の質の維持を求めた『学生自治会から大学への提言』（以下、『提言』）を掲載しました。

加えて、今回の大学改革について新しい情報が続々と出てきている中で、引き続き学生がこの大学改革についてどのような意見を抱いているのかを把握しておく必要があると学生自治会は考え、今年7月下旬から8月上旬まで『大学改革についてのアンケート』を実施しました。アンケートでは、『提言』に対する意見、教育設備負担金の徴収や、今回の大学改革に対する学生の考えなどを調査しました。なお、今回のアンケートは紙媒体の他に、学生自治会のホームページも用いて実施しました。その結果、全体で157通の回答がありました。アンケートの結果、ほぼ全て『提言』に対して賛同するとの意見でした。また、教育設備負担金の徴収については反対の意見が割合として高く、負担金の設置による経済的負担を心配する声が集まりました。このような結果を踏まえた上で、8月6日に『提言』を大学に提出しました。

そして、アンケートで得られた学生の声を伝え、『提言』の内容を大学に説明する必要があるため、アンケート結果や『提言』を用いて、8月16日に学長との話し合いを行いました。学生自治会からは委員長以下7名、大学からは学長以下6名が出席しました。その中では、アンケートで集まった学生からの疑問点に関する質疑応答や、大学から新大学の仕組みの特徴についての説明がありました。この話し合いにより、『提言』にある現行の大学で行われている学問の維持・教育の質の維持については、教育設備負担金の問題を除き、概ね提言の内容が満たされることが分かりました。また『提言』にある「学生・教職員勉学環境改善委員会（仮）」については、大学も積極的な姿勢を見せており、12月15日に「学生参加型の授業改善活動」についてのシンポジウムが開催されることになりました。

学長との話し合いで得られたこれらの情報は、ポスター形式でまとめて10月にA9棟横の学生自治会掲示板に掲示し、自治会総合情報誌『NASCA vol. 24 ～2010年度後期自治委員会総会情宣号～』にも掲載しました。

また、今回の大学改革について大阪府大学教職員組合と協力体制をとり、月に1度行っている連絡会の中で情報交換や意見交換を行いました。この連絡会や大学、大阪府などから得られた学生に関係する情報は冊子やポスターのほか、学生自治会のホームページを通じて学生に発信しました。

## ・これからの活動

学生自治会はこれからも大学の変化を注視し、大学だけの意向で独断的な意思決定がなされないよう、大学に対して学生の意見を随時発信していきます。『提言』の「学生・教職員勉学環境改善委員会（仮）」については12月15日に開催されるシンポジウムを足掛かりに大学と協議を続け、勉学環境について幅広い形で意見交換ができる委員会の設置に向けて尽力していきます。

現在、大学は来年5月の新学域の設置認可申請に向けてワーキンググループを設置し、グループごとにそれぞれ平成24年度からの新大学に向けて話し合いや調整を行っており、その会議で新大学の詳細は決まりつつあると考えられます。しかし“これまでの活動”にあるように、大学は昨年12月の説明会以降、学内全体に向けての大学改革に関する説明会や意見交換会は行っておらず、学生に大学改革に関する情報が十分に伝わっていない現状です。このままでは、大学の重要な構成員である学生の意見が十分に反映されないまま、改革が推し進められ、学生に不利益が生じてしまう恐れがあります。そこで、学生自治会は今後も大学に学内全体に向けた説明会や意見交換会の開催を求めると同時に、学生自治会でも独自に学生に正しい情報が伝わるよう経緯や全体の把握を行い、それをホームページや冊子、ポスターなどの形で発信していきます。そして、引き続き学生の意見収集に努め、大学に伝えていきます。

## 【りんくうキャンパスに関する活動】

### ・これまでの活動

学生自治会は2008年度後期自治委員会総会決議に基づき、2009年度からりんくうキャンパスで暫定的に活動を行っています。また、りんくうキャンパスでの学生自治を行うため、有志によりりんくうキャンパス学生会（以下、学生会）が発足し、活動を行っています。

りんくうキャンパスと中百舌鳥キャンパスの学生がおかれている状況は、キャンパス構内や周辺地域の様子なども含めて大きく異なります。学生自治会は、りんくうキャンパスの状況が分からない状態では、十分な活動を行うことができないと考え、学生会との話し合いやアンケートを通じて、りんくうキャンパスに関する情報収集活動を行ってきました。

また、現在学生会は人員不足のため、今後の継続的な活動が困難な状況です。そこで、学生会との話し合いの中で、これからりんくうキャンパスでの学生自治をどう行えばりんくうキャンパスの学生にとって望ましいのかが議題になりました。しかし、その話し合いの中では結論には至らなかったため、学生自治会でも検討を行いました。その結果、りんくうキャンパスにも学生の声を大学に伝える学生自治組織が必要であり、また現状として学生自治会であれば継続的な活動を行うことができるため、来年度から学生会を学生自治会のりんくうキャンパス支部として、活動を行うことが望ましいと学生自治会は考えました。

また学生自治会は、りんくうキャンパスへの移転によって課外活動にどのような影響があったかを把握するために、今年6月上旬にりんくうキャンパスで『課外活動に関するアンケート』を行いました。その結果、「りんくうで活動しているサークルに所属しているが、大学からの援助がもらえないために設備使用費で苦勞している」といった内容の意見が多数ありました。大学から金銭的な援助を受けるためには、大学公認の部として団体登録する必要があります。調査した結果、りんくうキャンパスでは大学公認の部として団体登録できる条件が中百舌鳥キャンパスでの条件より緩和されていることがわかりました。そこでその情報を掲載したビラをりんくうキャンパスの学生に配布し、ポスターを掲示しました。

### ・これからの活動

“これまでの活動”にあるように、来年度から暫定的に学生会を学生自治会のりんくうキャンパス支部として、活動を行うことが望ましいと学生自治会は考えました。学生自治会はこの方針で学生会との話し合いを行い、今年度中に学生会の今後のあり方を話し合っていきます。

また、今後も学生自治会はアンケートでりんくうキャンパスでの情報収集活動を行い、りんくうキャンパスの現状把握に努めます。そして、りんくうキャンパスで集められた学生の声を基に学生自治会が新たな活動を行えないか随時検討していきます。

## 【情報宣伝・収集活動】

### ・これまでの活動

自治会活動は、よりよい学生生活の実現を目指して学生全員で行っていくものです。例え学生ひとりひとりのできることが限られていても、学生全員が協力することで様々なことが実現できるようになります。そのためには、学生が自治会活動に興味を持ち、学生自治会や大学に対して意見を発しやすい環境にあることが大切です。また学生自治会は、中百舌鳥キャンパスやりんくうキャンパスの現状を十分に把握した上で活動する必要があります。そこで学生自治会は、自治会活動に関する情報を掲載した自治会総合情報誌『NASCA』、立て看板、ビラ、ポスター、B12棟（学生会館）1階の掲示板装飾、ホームページなどを用いた情報宣伝活動や、意見箱やホームページの掲示板、メール、アンケートなどを用いた情報収集活動を行っています。また、大学改革について大学や府の動向を把握するため、ホームページや新聞などのメディア、大阪府大学教職員組合や学生センターとの話し合いなどで情報収集活動を行ってきました。

情報収集活動によって集められた学生の意見は、学生自治会で活動に反映させることができるかを検討し、必要に応じて大学に伝えてきました。また、その意見に対する学生自治会や大学の回答は意見箱付近に設置している掲示板への掲示、『NASCA』やホームページの意見箱回答のページへの掲載を通じて発信してきました。

近年、アンケートの回収数や意見箱への投函数の減少、クラス役員に集まる意見の減少などから学生の自治会活動に対する関心が低いと見られる状態が続いていました。学生自治会は、その原因の一つとして情報宣伝・収集活動の方法に問題があると考え、これまでの情報宣伝・収集活動の方法を包括的に見直してきました。

見直しの内容として、情報宣伝活動ではホームページの自治会活動に関するページのコンテンツを充実させ、昨年度はあまり使用していなかったA9棟横の学生自治会専用掲示板の活用などを行いました。また、情報収集活動では大学改革に関するアンケートや要望アンケートを携帯電話やパソコンからも回答できるよう、学生自治会のホームページでも実施しました。さらに意見箱が目立たず、学生が意見を発しづらかった現状を改善するためにB12棟（学生会館）1階の意見箱の改修を行いました。これらの見直しを行った結果として、アンケートの回収数の増加や意見箱の投函数の増加がみられました。

### ・これからの活動

学生自治会は今後も、学生が意欲的に意見を発することができる環境にするため、また学生自治会が大学の現状を十分に把握するため、現在の情報宣伝・収集活動を行います。情報収集活動によって集められた学生の意見は、学生自治会で今後の活動に反映できるかを検討し、必要に応じて大学に伝えていきます。また、その意見に対する学生自治会や大学の回答は、意見箱付近に設置している掲示板への掲示、『NASCA』やホームページへの掲載を通じて発信していきます。

また、“これまでの活動”にあるように、情報宣伝・収集活動の方法を包括的に見直した結果、アンケートの回収数の増加や意見箱の投函数の増加がみられました。学生自治会は、このような結果となったのは、情報宣伝活動の方法の改善により学生の自治会活動に対する関心が一時的に高まったからだと考えます。そこで、継続して自治会活動に対して関心を持ってもらうために、今後の情報宣伝・収集活動の方法をどうしていくべきかを検討していきます。

## 【学生団体連絡会議】

### ・これまでの活動

大学に存在する、学生自治会を含めた11の学生団体は、学生団体間の情報交換や調整、単独の学生団体だけでは解決が困難な問題に対処するために、月に1度学生団体連絡会議（以下、学団連）を行ってきました。

4月の学団連で発足した第37回七夕祭実行委員会は、「学生や地域住民をはじめとした幅広い層が参加でき、皆が気軽に楽しめる夏祭りとする」ことを目的に活動し、6月28日に第37回七夕祭を開催しました。学生自治会は、七夕祭は学生や地域住民が交流できる場として有益であると考え、活動場所として学生自治会室を提供する、実行委員として自治会役員が参加するなどの協力を行いました。

6月には、大学による府大池周辺の美化計画で、改造部室の撤去が大学の意向だけで決定されるという問題が起きました。それを受けて6月の学団連で、改造部室に部屋を構えている各団体から改造部室撤去の決定に反対の声を挙げたいとの意見がありました。学生自治会は、改造部室の学生団体が旧体育部室に移動することで、学生団体間の連携に支障が出ると考え、7月の学団連で、関係する団体の連名で抗議文を提出することを提案しました。そして改造部室の各団体に説明を行い、賛同を得られた団体の代表者の連名で抗議文を作成し、7月29日に大学に提出しました。その後、改造部室の各団体と大学との間で話し合いが行われましたが、旧体育部室棟への移転が決定しました。

11月の学団連にて、「新たに大阪府立大学に入学してくる学生がこれから抱くであろう不安や疑問を解消し、新入生にいち早く大学に馴染んでもらいより充実した大学生活を送れるようにサポートする」ことを目的に第29回全学新歓実行委員会が発足しました。

また、学団連の構成団体は月に1度、大学との相互理解を深めるために学生センターとの話し合いを行ってきました。話し合いの中では、大学から学部長連絡会議、教育研究会議に関する報告を受け、情報や意見の交換を行って大学の状況を知るとともに、学生の意見を伝えてきました。また、そこで得られた情報は『NASCA』やホームページ、ポスターなどを通じて学生に随時発信してきました。

### ・これからの活動

これからも月に1度学団連を行い、学生団体間の情報交換や調整、単独の学生団体だけでは解決が困難な問題に取り組んでいきます。

“これまでの活動”にあるように、現在改造部室を利用している団体の旧体育部室棟移転が決定しました。今後は、移転後の学生団体の活動に支障が出ないように、学団連の中で話し合っていきます。そして、旧体育部室棟への移転が完了した後も、逐次学生団体の活動に支障がないかどうか、話し合っていきます。

また、毎年3月から4月にかけて行われる新入生歓迎の時期には、多くのクラブ・サークルなどの団体が勧誘活動を行います。しかし、その中には度を過ぎた勧誘を行う団体も出てくると考えられます。度を過ぎた勧誘は、入学手続きやカリキュラムオリエンテーションの妨げになるだけでなく、新入生にとって大きな負担になることが考えられます。そこで、学団連を通じてそのような勧誘への対策を考えるとともに、団体間の連携を強化し、来年度の新入生歓迎の時期が問題なく終えられるよう、話し合いを行っていきます。

11月の学団連で発足した第29回全学新歓実行委員会は、新入生を全学的に歓迎し、新入生が大学生活を始める上で抱く不安を解消し、大学生活を順調に滑り出せるような活動を検討しています。学生自治会はこの活動が新入生の学生生活をよりよいものにする有益な活動であると考えます。そこで、学生自治会は活動場所として学生自治会室を提供すること、自治会役員が実行委員として参加することなどを通じて協力していきます。

今後も学団連の構成団体は月に1度学生センターとの話し合いを行い、大学から情報提供を受け、意見交換を行っていきます。また学生センターとの話し合いで有益な情報が得られた場合、『NASCA』やホームページ、ポスターなどを通じて学生に発信していきます。

## 【立て看板管理局】

### ・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは、多くの学生団体やクラブ・サークルが立て看板を情報宣伝手段として利用しています。しかし、立て看板は扱い方を誤ると大変危険なため、管理・運用は十分に注意して行わなければなりません。そこで学生自治会は、友好祭実行委員会・白鷺祭実行委員会とともに立て看板管理局を設置し、立て看板による事故が起こらないよう、強風時に立て看板を倒すまたは撤去するなどの対策を講じてきました。その他、利用団体に立て看板の使用上の注意を記載した立て看板・ステージバックマニュアルを渡すとともに、立て看板利用の際の注意を促してきました。また立て看板管理局は、大学祭のステージにて使用するステージバックも立て看板と併せて管理・運用を行ってきました。

さらに立て看板管理局は、立て看板とステージバックの危険性や正しい立て方を再確認し、管理局内の管理意識を高め、より安全に管理・運用できるよう、各構成団体を対象に講習会を開きました。

また第62回白鷺祭本祭典では、普段とは異なり、多くの立て看板が設置されることに加え、立て看板の危険性を知らない一般の方が多数来訪すると考えられました。特にフリーマーケット出店者は、立て看板を立てている場所の近くにいるため、一層の注意が必要であると考えました。そこで、立て看板管理局は普段の管理に加え、本祭典中に立て看板の見回りを行う、立て看板の周囲に立ち入り禁止のテープを張る、フリーマーケット出店者に注意を促すビラを配布するなどの対策を講じました。

### ・これからの活動

立て看板管理局は、立て看板やステージバックが安全に利用されるよう、引き続き管理・運用を行っていきます。

また、毎年3月から4月にかけての新入生歓迎時期には、普段よりも多くの立て看板が設置されます。そのため、立て看板管理局では新入生歓迎時期の立て看板の設置場所を円滑に割り振るため場所割会議を行い、利用団体に立て看板・ステージバックマニュアルを渡します。また利用団体に対して、立て看板の一斉立ての際に立て看板の正しい立て方を講習します。そうすることで、立て看板利用時の注意を促し、事故の発生を未然に防ぐことを目指していきます。

そして、第50回友好祭本祭典でも白鷺祭と同じく、立て看板管理局は普段の管理に加え、友好祭本祭典中に立て看板の見回りを行う、立て看板の周りに立ち入り禁止のテープを張る、フリーマーケット出店者に注意を促すビラを配布するなどの対策を行います。また、その他にも安全対策を強化するための手段を検討していきます。

## 【大型PA再購入実行委員会】

### ・これまでの活動

大型PA再購入実行委員会は、大型音響機器（以下、大型PA）の再購入を円滑にできるようにすることでクラブやサークルなどの課外活動を充実させ、大学内の文化的発展を目的に活動している団体です。大型PA再購入実行委員会は、学生自治会・友好祭実行委員会・白鷺祭実行委員会・生協学生委員会・白鷺音響企画共同体S.T.A.F.-1・体育会・文化部連合の7団体で構成されています。今までに購入してきた大型PAは白鷺音響企画共同体S.T.A.F.-1が代表して所有し、管理・運用を行っています。

大型PA再購入実行委員会は、今年7月に総会を行って第3期再購入で購入する機器を決定し、8月に大型PAの再購入を完了しました。今回の再購入により廃棄する機器も、学生全員の所有物として購入した高価な物です。また、それらは古くなっているものの完全に利用できなくなっている訳ではなく、譲渡を希望する団体があれば、その団体に譲渡するのが望ましいと大型PA再購入実行委員会は考えました。そこで、定例会で譲渡を希望する団体を募り、希望した友好祭実行委員会、白鷺祭実行委員会、音楽集団雑草に譲渡しました。

また、その後は月に1度定例会を開き、第3期再購入について振り返り、その反省を生かした上で第4期再購入をどのように進めていくかを検討してきました。

### ・これからの活動

大型PA再購入実行委員会は、今後も月に1度定例会を開き、学生の需要に見合った大型PAの環境はどのようなものなのかを検討し、その上で大型PAの第4期再購入の年間の積立金額や機器の選定方法などのシステムを考えていきます。

また、第4期再購入が完了するまでに機器が故障した際には、大型PA再購入実行委員会の積立金から修理費を支出する、または後援会に援助を求めるなど柔軟かつ早急に対策を講じていきます。

## 【ステージ管理委員会】

### ・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは、大学祭の企画や昼休憩時のクラブ・サークル活動でステージが頻繁に用いられています。しかし、中百舌鳥キャンパスに3台あるステージはどれも老朽化が進んでおり、修理しても安全を確保しづらい状況にありました。そこで、老朽化の激しいものから順次買い替える必要がありました。また無断でステージにのぼる学生や、ブルーシートをかけずに雨ざらしにする利用団体などが存在し、これまで管理してきた友好祭実行委員会と白鷺祭実行委員会の間で管理・運用方法に差があることがわかりました。これらはステージの老朽化を早める一因と考えられるので、管理・運用方法を今一度見直し、統一する必要性がありました。

そこで、学生自治会・友好祭実行委員会・白鷺祭実行委員会の3団体で、今年5月にステージを所有し、これからのステージの購入を行うステージ管理委員会を設置しました。また、日頃からステージが安全に利用できるようにステージ管理委員会内にステージ管理局を設置し、ステージの管理・運用を担当することになりました。

ステージ管理委員会は、今年9月にステージ1台の購入を行いました。また納品の際、ステージ管理委員会を構成する3団体は、購入したステージの設営方法について専門業者から講習を受けました。また、月に1度定例会を行い、ステージを管理するマニュアルの作成、ステージの現状確認、次期再購入に向けての話し合いを行ってきました。

### ・これからの活動

ステージを管理するマニュアルが作成されたので、今後ステージの管理はステージ管理委員会内に設置されているステージ管理局が行います。ステージ管理委員会は引き続き月に1度定例会を行い、3台あるステージの現状確認、次期再購入に向けての話し合いを行っていきます。他にも、ステージの利用団体に対して正しい方法での利用を促す方法や、ステージを管理するステージ管理局の管理体制についてステージ管理委員会で検討していきます。

## 【理学部研究室紹介冊子『<sup>フォーリンラボ</sup>4理inLAB』】

### ・これからの活動

理学部は、旧大阪女子大学の理学部と旧大阪府立大学の総合科学部の一部が合併してできたという経緯があります。しかし、その際にシステムが十分に調整されないまま発足し、その後調整が行われてきましたが、結果として依然として問題が残されています。

その中で、「研究室についての情報が少なく、どの研究室を選べばよいかイメージがわからない」といった学生の声が多く集まりました。

そこで、学生自治会は「研究室についての情報が少なく進路を決定できない現状を改善するために理学部特有の研究内容を紹介し、理学部の学生の進路を決めやすい環境にする」ことを目的に、理学部研究室紹介冊子『<sup>フォーリンラボ</sup>4理inLAB』を作成します。『<sup>フォーリンラボ</sup>4理inLAB』には、各研究室の教員や配属されている学生にアンケートを行い、学生がその研究室に対して具体的なイメージが持てるような内容を掲載し、来年4月に1~3回生を対象に配布します。

また、今後の活動の参考にするため、この冊子を配布する際に評価アンケートを実施します。

## 【理学部改訂版履修の手引『<sup>りしゅう</sup>理修の手引』】

### ・これからの活動

先述のように、理学部には様々な問題が依然として残されています。その中で、「研究室によっては、配属までに履修しておかなくてはいけない講義があるけれど、どれを履修しなくてはいけないのかわからない』『履修の手引』が非常に使いづらい」という学生の声が多くありました。

そこで、学生自治会は「現在の『履修の手引』の説明が分かりにくいために、時間割を立てるにあたって理学部の学生が抱える疑問を解消し、より自分に合った時間割を組むことができるようにする」ことを目的に、理学部改訂版履修の手引『<sup>りしゅう</sup>理修の手引』を1~3回生を対象に作成します。冊子の作成にあたって、まずは大学に現状を説明し、協力を呼びかけていきます。そしてこの活動によって、大学が履修の手引きを改善する際の参考としてもらえるように活動していきます。

また、今後の活動の参考にするため、この冊子を配布する際に評価アンケートを実施します。

## 【人間社会学部情報誌『<sup>ひゅーまん</sup>human』】

### ・これからの活動

人間社会学部は、2005年に府立3大学が統合されたときに新設された学部であり、人間社会学部の卒業生はまだ2期生までしかいません。そのような状況で人間社会学部の学生から「自分が人間社会学部で学んでいることが、就職してからどう生かされるのかビジョンが見えなくて不安だ」という声や「色々な進路が考えられるため、学部にいる間にどういった資格を取っておけば、いいのか分からない」といった趣旨の声が集まりました。

また、今回の大学改革で平成24年度に、人間社会学部は解体・統合されることになったため「自分の学部や自分の学んでいる学問がどうなるのか心配だ」という声や「改革について様々な情報が飛び交っているが、人間社会学部で今後も安心して授業が受けられるのか」といった趣旨の声が集まりました。

そこで、学生自治会は「人間社会学部の学生に対して進路や資格、大学改革による学部再編の影響の情報を提供し学生の不安を解消する」ことを目的に、社会で活躍する卒業生へのインタビューや各学科の就職・資格情報、今回の大学改革によって人間社会学部がどうなるのかを掲載した、人間社会学部情報誌『<sup>ひゅーまん</sup>human』を作成し、来年4月に1～4回生を対象に配布します。

また、今後の活動の参考にするため、この冊子を配布する際に評価アンケートを実施します。

## 3. おわりに

はじめに述べたように、学生自治会は学生とともに大学改革という大きな変化に対して声を大にして意見を発してきました。それによって今回の大学改革では、学生の意見が軽視されたままの形で推し進められてしまうことは避けられそうです。これは大学改革に対して学生それぞれが考え、大学に対して意見した結果です。これは、今回の大学改革に限ったことではありません。日常の自治会活動においても学生それぞれで考え、ともに活動していくことでよりよい学生生活が実現されるのです。これからも学生自治会とともによりよい学生生活、ひいてはよりよい大学の実現を目指して活動していきましょう。